※　蛇をうんだ娘

昔、それはそれはきれいな娘がいた。その娘にいい男がかよってきては、毎晩おそくまでいた。その男は、「おれいい男だべ、耳コなくても、ほほかむりをしていればいい男だべ」といった。

そのうち娘の腹が大きく大きくふくれていった。母は心配して近所の人々に聞いてあるいたら、「いきものが入っているんだべ、家の前にある栗の木の下に、大きいハギリに、なまぬるい湯を入れ娘を入れればよいだろう」と、教えてくれた。

さっそく、その通りやってみたら、小さいヘビがたくさん出た。すると栗の木から大きい大きいあおのろしが落ち、ハギリをぐるぐるまいて死んでいった。